

例 言

1. 本書は、特別養護老人ホーム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、社会福祉法人豊生会の負担によって行われた。
3. 発掘調査、及び整理・報告書作成は委託業務として有限会社歴史考房まほらが実施した。
4. 発掘調査の事項は以下のとおりである。

遺 跡 番 号 10H18 遺跡・中尾 10-2 遺跡（注記：651）

遺 跡 所 在 地 群馬県高崎市井野町355-1・2・3・4

発掘調査担当者 山崎芳春（㈲歴史考房まほら）

発掘調査期間 平成27年9月30日～平成27年11月5日

調 査 面 積 775.80 m²

整理作業担当者 笠原 仁史（㈲歴史考房まほら）

整 理 期 間 平成27年11月6日～平成28年2月12日

5. 本書の編集は笠原仁史が行った。執筆は第1章第1節を矢島浩が、その他を笠原が担当した。
 6. 本書に使用した構造写真は山崎芳春（㈲歴史考房まほら）が、遺物写真は山際哲章が撮影した。
 7. 本書で使用した構造平面図は電子平板測量によるデジタルデータを編集し、断面図は手取り計測・作図したものをデジタルトレース編集したものである。なお、構造の平面測量はタナカ設計（田中隆明）に委託した。
 8. 発掘調査資料、出土遺物は、一括して高崎市教育委員会において保管している。
 9. 発掘調査及び本書の作成にあたって下記の方々の御助言・御教示を賜った。記して感謝いたします。（順不同、敬称略）
- 特別養護老人ホーム長寿荘 ケアハウス・ラ・メゾンアミカル 三恵保育園 島方孝晴
黒田収 近隣の方々 桜丘正信 神谷佳明 永井智教 矢島浩 山下工業㈱ 山際哲章
10. 発掘調査、整理作業に従事した者は次のとおりである。（順不同、敬称略）
- 発掘調査 赤尾嘉章 清川正行 小野田勝実 白石真知江 松井昭光 松尾宏子 水口知江子
山口容子 山田明男
- 整理作業 川島かおり 高橋実果 板垣陽子 星野綾子 栗山佐江子 渡辺寿美子
福田ツヤ子 山田由美子 石澤ユキエ 堀江洋子 杉本めぐみ

凡 例

1. 掲載図の縮尺は原則として次のとおりである。全体図は1/200、各構造図は1/60であるが、一部縮尺の異なるものは図中に縮尺を示した。
2. 遺構名は原則として、現場で付された名称を継承した。
3. 掲載遺物の縮尺は縄文土器・土師器・須恵器は1/3、石製・鉄製品は1/2・1/1、瓦は1/5で図中に縮尺を示した。なお、遺物写真は図面と同等な縮尺とした。
4. 構造平面図の北方向は座標北を示す。座標は世界測地系IX系である。
5. 出土遺物観察表に示す色調は農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修『標準土色帖』を参照した。また、石器・石製品実測・石材鑑定は山崎芳春が行った。
6. 出土遺物観察表の計測値に示した（ ）は復元推定値を、（ ）は残存値を表す。

目 次

序 例言 凡例

第1章 調査に至る経緯と調査の経過 ······	1
第1節 調査に至る経緯 ······	1
第2節 調査の経過 ······	2
第2章 遺跡の立地と環境 ······	3
第3章 基本土層 ······	6
第4章 遺構と遺物 ······	8
第1節 壺穴住居 (SI) ······	8
第2節 溝 (SD) ······	17
第3節 土坑 (SK) ······	21
第4節 ピット (P) ······	21
第5節 性格不明遺構 (SX) ······	25
第6節 遺構外出土遺物 ······	26
出土遺物観察表 ······	33
第5章 まとめ ······	36

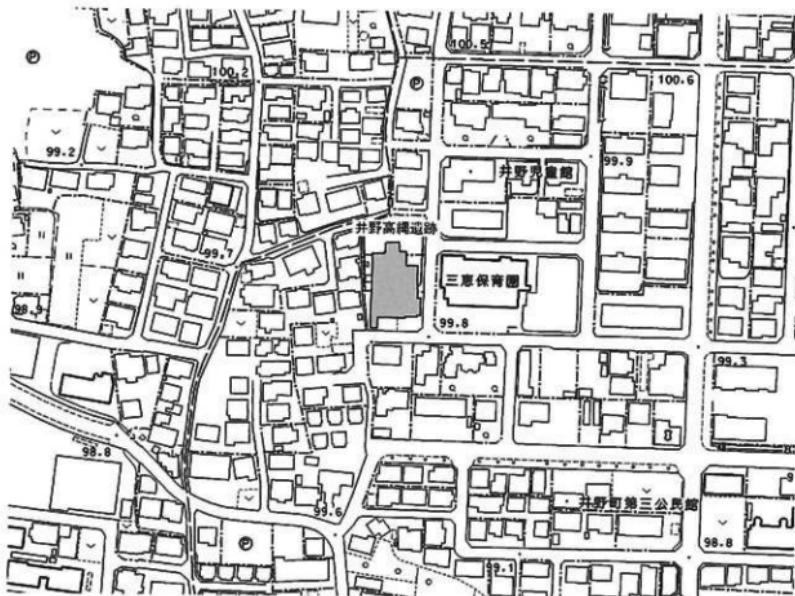
写真図版

報告書抄録

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年7月社会福祉法人豊生会から、高崎市井野町において計画している特別養護老人ホームに先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である10H18・中尾10遺跡内にあり、また井野高縄遺跡に隣接しているため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。開発計画が具体化した同年7月18日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、同年7月28日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の竪穴建物と溝を検出、埋蔵文化財の所在が明らかになった。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘証左による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「井野高縄遺跡2」とした。発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成27年9月15日に社会福祉法人豊生会と民間調査機関有限会社歴考房まほらとの間で契約を締結、また同日に社会福祉法人豊生・民間調査機関有限会社歴考房まほら・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督することとなった。



第1図 遺跡位置図（『高崎市計画基本図 1:2,500』を使用）

第2節 調査の経過

●発掘調査

発掘調査は平成27年9月30日から同年11月5日まで実施された。

調査経過の概略は下記のとおりである。

- 9月 30 日 調査開始。表土掘削。発掘器材搬入。
10月 3 日 表土掘削終了。
10月 5 日 造構調査開始。溝幅下げ。
10月 6 日 溝・土坑・ピット掘下げ。
10月 8 日 SI-1・溝・土坑・ピット掘下げ。
10月 9 日 SD-1 完掘写真撮影。
10月 13 日 SI-2・その他各造構掘下げ。各造構土層断面測量開始。
10月 14 日 SD-2-3・その他各造構掘下げ、セクション写真撮影。その他各造構掘下げ。造構平面測量開始。
10月 15 日 SI-1 完掘全景写真撮影。SI-2 遺物取上げ。SD-2-3 完掘全景写真撮影。
10月 19 日 SI-2 床面精査。
10月 20 日 SI-2 柱穴・SX-1 挖下げ、写真撮影。
10月 21 日 調査区南東部について土層断面に住居床面と思われる層が認められたため調査範囲を東側へ拡張(SI-3-5)。豊生会理事会遺跡見学。
10月 23 日 SI-1 挖り方掘下げ。SI-4 挖下げ、カマドセクション写真撮影・作図。
10月 26 日 SI-1 挖り方掘下げ。SI-4 完掘全景写真撮影。
10月 27 日 SI-1 挖り方全景写真撮影。SI-2 完掘全景写真撮影、掘り方掘下げ。
10月 28 日 SI-3 調査区拡張部分の調査。SI-2 挖り方掘下げ、周辺検出。三恵保育園園児遺跡見学。市教委調査完了検査。
10月 29 日 SI-2 挖り方・SI-3-5 完掘全景写真撮影。SK-14-15(井戸)底面確認。
10月 30 日 SI-3-5 挖り方掘下げ。
11月 4 日 SI-1 北側について調査区拡張、掘下げ、完掘全景写真撮影。埋め戻し開始。器材搬出。
11月 5 日 埋め戻し完了。島方氏・黒田氏(開発事業者)現場確認。調査終了。

●整理作業

整理作業は平成27年11月6日～平成28年2月28日まで有限会社歴史考房まほらによって行われた。作業経過の概略は下記のとおりである。

平成27年

- 11月 6 日 写真・その他調査資料整理。
11月 9 日 遺物洗浄開始。「遺物発見届」提出。
11月 11 日 遺物洗浄終了、注記開始。
11月 13 日 遺物注記終了、選別開始。豊生会(開発事業者)・高崎市教育委員会へ『概略報告書』提出。
11月 16 日 遺物選別終了、接合・復元開始。
11月 20 日 遺物実測開始。
11月 22 日 造構平面・断面図トレース開始。
11月 25 日 SI-4 出土の縄文陶器について、神谷佳明氏(県埋文)にご教示を賜る。

平成28年

- 1月 4 日 遺物トレース開始。
1月 13 日 造構トレース終了、造構図版レイアウト開始。
1月 15 日 遺物トレース終了、拓本デジタル処理開始。
1月 18 日 造構図版レイアウト終了、造構図版レイアウト開始。原稿執筆。
2月 1 日 遺物図版レイアウト終了。報告書編集開始。
2月 8 日 遺物写真撮影。

2月 9日 原稿執筆終了。遺物写真デジタル処理。
2月 10日 遺物写真図版編集。
2月 12日 報告書編集終了。作業完了。

第2章 遺跡の立地と環境（第1・2図、第1表）

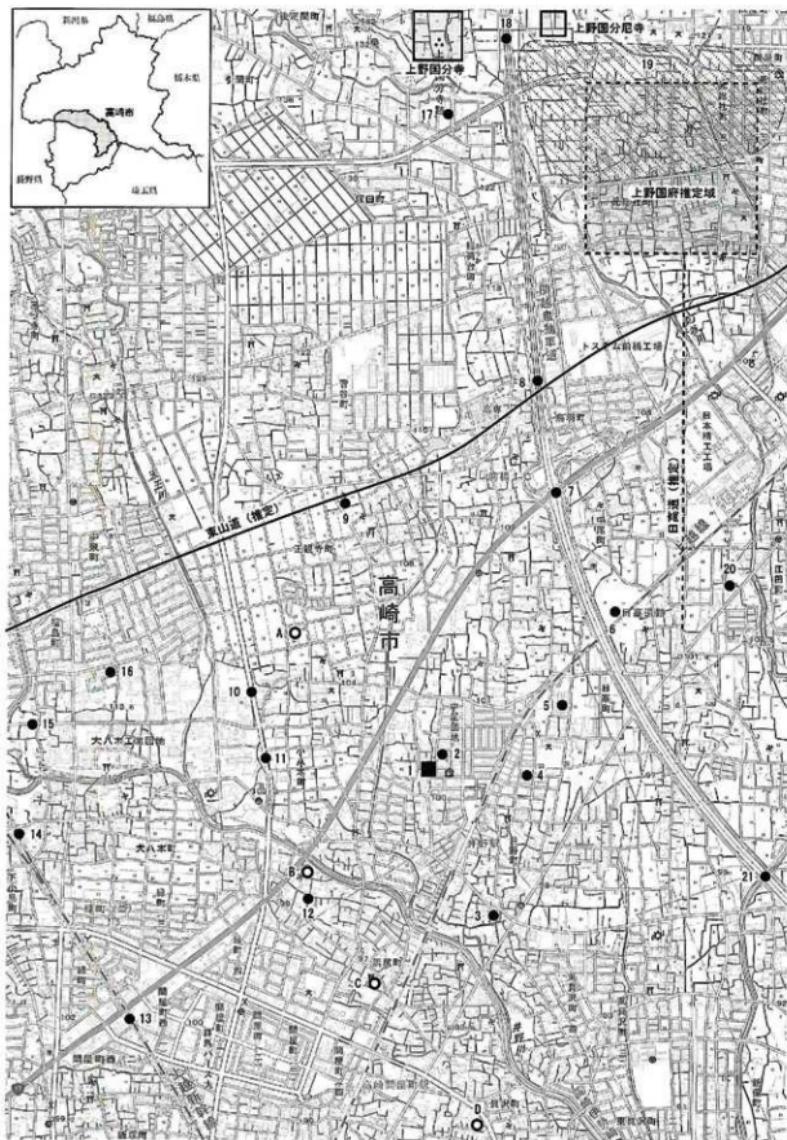
井野高綱遺跡2は、高崎市中心市街地から北東部の井野町にあり、JR上越・両毛線「井野駅」の北500m程に位置する。地形的には井野川右岸の前橋台地上に立地し、標高99.1～99.2mを測る。また、全体的には僅かに南東部へ傾斜する地形を成すが、遺跡内においてSD-1（溝）を境に造構が確認された東側の微高地と西側の低地とに明瞭に地形が分かれることができた。おそらく、本遺跡を含む一帯は榛名山麓から発する大小河川によって、台地と低地とに細かく開析、分断された複雑な地形が形成されていったことが考えられ、周辺遺跡の分布状況からも台地・微高地の集落、低地の水田などが混在している傾向が窺える。

周辺遺跡を時代毎に概観すると、縄文時代の遺跡は隣接する地域ではなく、雨壺遺跡(14)、大八木箱田遺跡(15)、上野国分僧寺・尼寺中間地域(17)、元総社蒼海地区遺跡群(18)と、地形的に前橋台地の西端・北端部に分布しているのみである。

弥生時代に入ると遺跡は数を増し、正觀寺遺跡群(9)、小八木遺跡(11)、浜尻遺跡(12)、下小鳥遺跡(13)、融通寺遺跡(14)、新保遺跡(21)など環濠集落を含む大規模集落の他、井野天神遺跡(3)、中尾村前遺跡(5)、日高遺跡(6)、小八木遺跡(11)、新保遺跡(21)などのAs-C下水田でも大規模生産遺跡が確認されており、前橋台地西側地域まで生活圏が拡大している様子が窺える。

古墳時代に入ると、さらに數を増し拡大している。鳥羽遺跡(8)、正觀寺遺跡群(9)、浜尻遺跡(12)、下小鳥遺跡(13)、融通寺遺跡(14)、雨壺遺跡(15)、大八木箱田池遺跡(16)、上野国分寺参道遺跡(17)、上野国分僧寺・尼寺中間地域(18)、元総社蒼海地区遺跡群(19)、新保遺跡(21)など集落遺跡の他、少し離れた地域には熊野堂遺跡、御布呂遺跡、芦田貝戸、新保田中村前遺跡などIIr-FP・IIr-FA下水田が確認されている。また、本遺跡の西～南側にかけて円墳の権現塚古墳(A)、真福寺古墳(B)、前方後円墳の天王山古墳(C)、五靈神社古墳(D)が、さらに井野川沿いにはその北西に保渡田古墳群、南東に綿貫古墳群が分布している。

律令期には、本遺跡の北北東3km程に上野国府（推定）、北3.7km程に上野国分寺・尼寺が、北1.5km程に東山道（推定）、東1.3km程に日高道（推定）の古代幹線道路が整備されていたことが知られており、古代群馬の中心地に隣接する地域にあったことは容易に想像される。当然、国府周辺では律令期以前から大規模集落・墓域が存在しており、当該時期においても山王庵寺をはじめ、元総社蒼海地区遺跡群(19)、鳥羽遺跡(8)、中尾遺跡(7)、新保遺跡(21)など大規模集落・居館・寺社などの遺跡が確認されている。その他、本遺跡周辺の奈良～平安時代の遺跡には井野高綱遺跡(2)、正觀寺遺跡群(9)、下小鳥遺跡(13)、融通寺遺跡(14)、雨壺遺跡(15)などの集落、井野矢ノ上遺跡(4)、中尾村前遺跡(5)、勝呂遺跡(20)などのAs-B下水田が分布している。



第2図 周辺遺跡分布図（『国土地理院1:25,000』を使用）

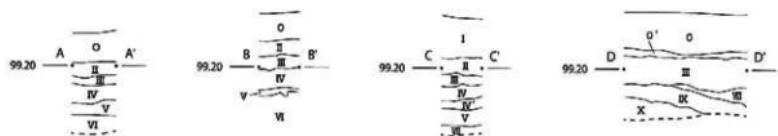
第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡名	概要	備考
1	井野高瀬遺跡 2	绳文・古墳・平安時代の集落	本報告書当該遺跡
2	井野高瀬遺跡	平安時代の集落	『発掘調査報』1983 高崎教委
3	井野天神遺跡	As-C 下出土木材・槽式土器	『清里・庚申塚遺跡』1981 群理文
4	井野矢ノ上遺跡	As-B 下水田	『井野矢ノ上遺跡』1995 高崎調査会
5	中尾村前遺跡	As-C 下水田, As-B 下水田	『中尾村前遺跡』1988 高崎調査会
6	日齋遺跡	As-C 下水田	『日高遺跡』1982 群埋文／『日高遺跡 I・II』1979-1980 高崎教委 国指定史跡
7	中尾遺跡	奈良・平安時代の集落	『中尾遺跡』1983 群埋文
8	鳥羽遺跡	古墳～江戸時代の集落	『鳥羽遺跡』1988 群埋文
9	正親寺遺跡群	弥生～平安時代の集落	『正親寺遺跡群 I～III』1979～1981 高崎教委
10	小八木忠貞戸遺跡群	古墳時代の櫛溝祭祀、古代の墓葬、 As-B 下水田、中世の墓、あずま道	『大八木忠貞戸遺跡群 2』2001 群埋文
11	小八木遺跡	弥生時代の集落・水田	『大八木遺跡調査報告書 1』1979 高崎教委
12	浜尻遺跡	弥生・古墳時代の集落	『浜尻遺跡』1981 高崎教委
13	下小島遺跡	弥生～平安時代の集落	『鳥羽遺跡』1991 群埋文
14	織通寺遺跡	弥生～平安時代の集落	『織通寺遺跡』1991 群埋文
15	雨森遺跡	绳文～平安時代の集落	『熊野堂遺跡第Ⅲ地区・雨森遺跡』1984 群埋文
16	大八木箱田池遺跡	绳文・古墳時代の集落	『大八木箱田池遺跡 1』1983 高崎教委
17	上野国分寺參道遺跡	古墳～平安時代の集落	『上野国分寺參道遺跡 1』1997 前橋教委
18	上野国分僧寺・尼寺中間地城	绳文時代～中世の集落	『上野国分僧寺・尼寺中間地城』1987 群埋文
19	元總社苔海遺跡群	绳文時代～中世の集落	『元總社苔海遺跡 1』2005 前橋教委、他
20	勝呂遺跡	As-B 下水田	『勝呂遺跡 1』1987 前橋教委
21	新保遺跡	弥生時代～中世の集落	『新保遺跡 I～弥生・古墳時代大溝編』1986 群埋文／『新保遺跡Ⅱ（奈良・平安時代編）・蛭沢遺跡』1988 群埋文
A	権現塚古墳	円墳	『正親寺遺跡群Ⅲ』1981 高崎教委
B	高福寺古墳	円墳	『上毛古墳總覧』1938 群馬県
C	天王山古墳	前方後円墳	『群馬県史（資料編3）』1981 群馬県
D	五雲神社古墳	前方後円墳 8世紀代	『下里見富谷戸遺跡 2・足門東坐歌問遺跡・五雲神社古墳』2014 高崎教委

第3章 基本土層 (第3・4図)

遺跡の地形は中央部を南走する SD-1 (溝) を境に、東側の微高地と西側の低地とに地形が大きく分かれています。基本層序は調査区壁で観察した。基本層序は以下のとおりであるが、微高地部分については造構と擾乱の影響から観察地点が2箇所に止まること、各造構の土層観察においても多様な堆積状況が認められることから標準的な層序として断定することは難しいところである。このような多様な堆積状況を示すことは平成4年に児童館建設に伴い調査が実施された井野高縄遺跡(2)においても『発掘調査概報1993市教委』に記載されている。よって、各造構の土層説明において基本層序に照らして土層説明を統一することができず、調査時に記載されたものを掲載した。また、各層において含有する白色粒については整理段階で「Hr-FP ?」としたが、火山灰の特定はしていない。Hr-FA、あるいはAs-Cの可能性もある。

造構確認面は②層上面で行われたが、調査区壁の土層観察では平安時代のSI-3・5は表土直下の②層より掘り込まれていることが確認できた。とは言え、手作業によって拡張したにもかかわらず平面で僅かな土質の差が認められたのは③層に至ってからで部分的に検出できる程度の状態であった。他の造構についても上位層から掘り込まれていた可能性はあるが、擾乱などの影響も大きく確認はできていない。

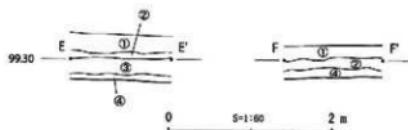


基本土層(低地) A-A' ~ D-D'

0. 黄褐色土。粘性あり、締り強。表土。鈍石下の板状土。
- 0' 黄褐色土。粘性あり、締り強。ローム粒多量含有。埋め土?
- I. 喀褐色土。粘性あり、締り弱。表土。
- II. 黄褐色土。粘性弱、締り強。白色粒(Hr-FP?)少量含有。やや砂質。
- III. 喀褐色土。粘性あり、締り強。白色粒(Hr-FP?)少量含有。
- IV. 喀褐色土。粘性あり、締り弱。砂質土。白色粒(Hr-FP?)少量、赤褐色斑(鉄分?)含有。下層に赤褐色土(鉄分?)が層状に出現。

IV' 喀褐色土。粘性弱、締りあり。砂質層。赤褐色斑(鉄分?)がIVよりも大きい。

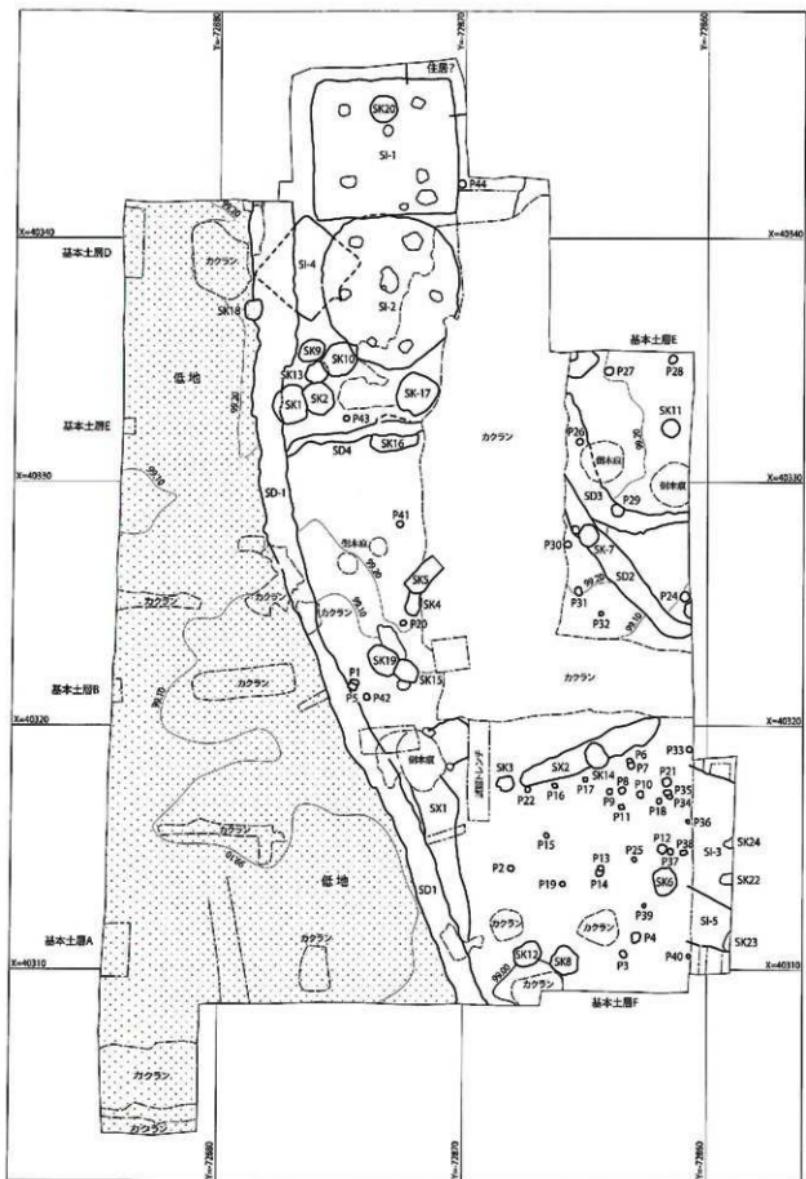
- V. 喀褐色土。粘性なし、締り弱。砂質土。
- VI. 黒褐色土。粘性強、締りあり。粘質土(鉄炭層)。赤褐色斑少量含有。
- VII. 黄褐色土。粘性あり。締り強。種少量混在。砂質土混在の粘質土。
- VIII. 喀褐色土。粘性あり、締り強。ローム粒含有。
- IX. 黑褐色土。粘性あり、締り強。ローム粒含有。
- X. 喀褐色土。粘性あり、締り強。ローム土。



基本土層(微高地) E-E' F-F'

- ①. 黄褐色土。粘性あり、締り強。表土。
- ②. 黒褐色土。粘性・締りあり。白色粒(Hr-FP?)含有。
- ③. 黑褐色土。粘性・締りあり。白色粒(Hr-FP?)少量含有。
- ④. 喀褐色土。粘性・締りあり。ローム粒少量含有。
この下層は暗黄褐色粘質土(木成コーム?)。

第3図 基本土層図



第4図 造構配置図

第4章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居 (SI)

SI-1 (遺構: 第5図、図版1／遺物: 第19図、第4表、図版5)

重複: SK-20に切られ、SI-2を切っている。北東角にもう1軒重複する可能性があるが、不明瞭なため確認していない。 形態・確認規模: 東西 $6.0 \times$ 南北 5.8 m 、深さ 10 cm 程の方形を成す。 主軸方向: N-2° -W。 炉: 中央北寄りに敷設。残存径 $41 \times$ 残存深さ 4 cm 程の円形を成す。 東側に僅かな焼土が認められた。 柱穴: P1～5が検出されたが、P3を除く4本が支柱穴と考えられ、径 $40 \sim 50 \times$ 深さ 45 cm 程の円形を成す。 P3は南壁際にあり、径 $30 \times$ 深さ 30 cm 程の円形を成す。 貯蔵穴: 南東隅のSK1が貯蔵穴の可能性あり。 東西 $80 \times$ 南北 $62 \times$ 深さ 20 cm 程のやや東西に長い楕円形を成す。 床面: 一部南西部に硬化面らしき部分が認められたが、全体的に床面と掘り方にほとんど差が認められないことから明瞭な床面を検出することはできなかった。ただし、土層断面観察から判断するところは平坦な床が造られていたことが考えられる。 覆土: 白色粒 (Hr-FP?) 含有黒褐色土を主体とするが、覆土が薄く埋没状況の判断は難しい。 掘り方: 全体的に④層下の暗黄褐色粘質土 (水成ローム?) が露呈する小さな凹凸が全面に認められた。しかし、床面との差はほとんどなく掘り方、あるいは水成ロームの露呈状況を示すものの判断が難しいため図化せず、写真に記録するに止めた。

遺物: 掘載遺物4点。土器はいずれも南東隅から出土している。石斧は掘り方覆土から出土しており、構築時にSI-2の遺物が混入した可能性が高い。 所見: 残存状態が悪く出土遺物も少ないが、遺構形態・出土遺物から古墳時代初頭～前期の住居と推定される。

SI-2 (遺構: 第6・7図、図版1・2／遺物: 第19・20図、第4表、図版5)

重複: SI-2・4に切られる。SK-10との新旧関係は不明瞭。 形態・確認規模: 東西 $5.6 \times$ 南北 6.4 m 、深さ 20 cm 程のやや南北に長い円形を成す。 主軸方向: N-3° -W。 炉: 中央部のP6が炉掘り方の可能性がある。長軸(南北) $106 \times$ 短軸(東西) $72 \times$ 深さ 10 cm 程の楕円形を成す。 P6に焼土は残っていないが、周辺覆土に焼土粒を含有する層が僅かに認められた。 柱穴: SK1・P1～5の円形を成す柱穴が6本検出された。ほぼ均等に配されているが、南側のP2・5のみ間隔が狭くなってしまっており、この部分の平面形態が僅かに突出していることから出入口が設けられていたことが考えられる。規模には多少ばらつきがあり、SK1は径 $68 \times$ 深さ 60 cm 、P1は径 $48 \times 44\text{ cm}$ 、P2は径 $40 \times$ 深さ 26 cm 、P3は径 $44 \times$ 深さ 38 cm 、P4は径 $50 \times$ 深さ 60 cm 、P5は径 $38 \times$ 深さ 50 cm 程を測る。また、中央部のP7は径 $18 \times$ 深さ 14 cm 程の小さな凹みであるが、周りに扯がる凹凸とは明らかに区別できるものである。 床面: 搾乱による影響から明瞭な床面は確認できなかった。全体的に床面と掘り方にほとんど差が

SI-1 A-A' ~ C-C'

- 表土・砂石。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP?) 少量 (1よりやや多い) 含有。
- 暗褐色土 (3よりもやや暗い)。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP?) 少量含有。
- 黒褐色土。粘性・繊りあり。白色粒 (Hr-FP?) 少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量、白色粒 (Hr-FP?) 含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒多量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。
- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒含有。

P-3 D-D'

- 暗褐色土。粘性・繊りあり。ローム粒少量含有。

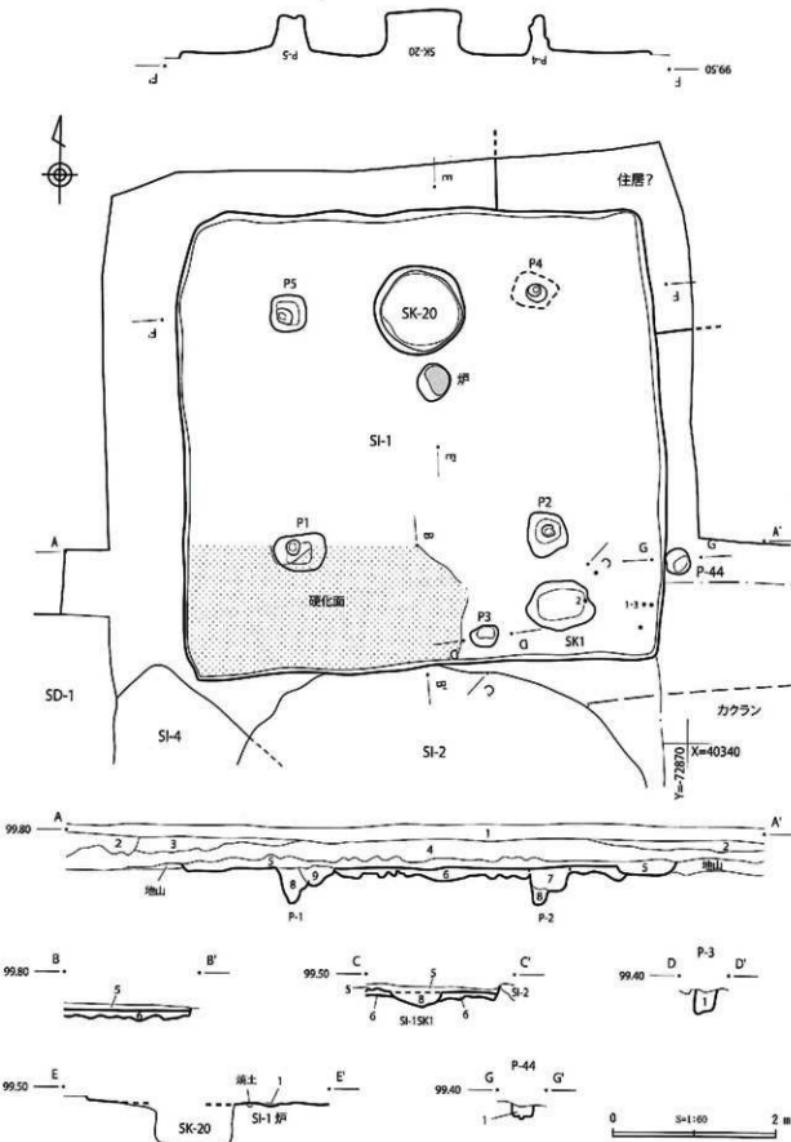
SI-1 E-E'

- 暗赤褐色土。粘性・繊りあり。焼土粒少量含有。やや焼けている。

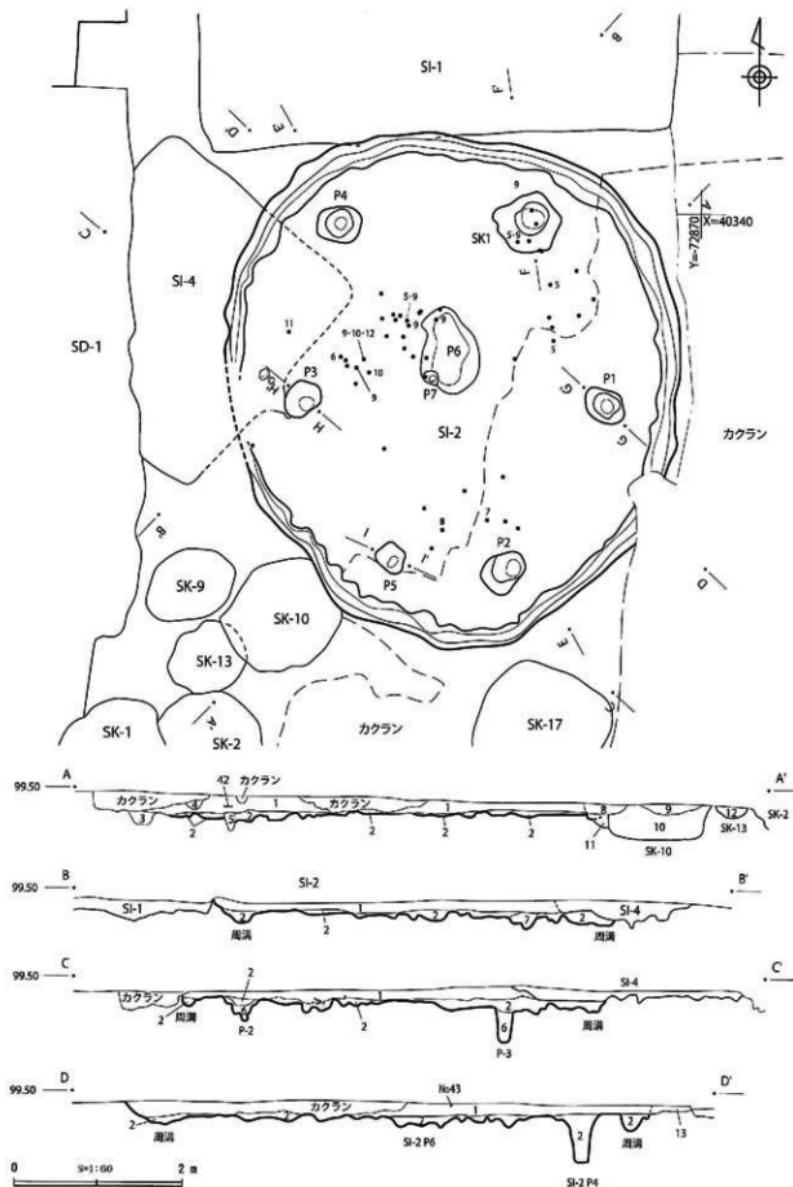
P-44 G-G'

- 黒褐色土。粘性あり、繊り弱。ローム粒少量。

SI-1 土層説明



第5図 SI-1、SK-20,P-44 遺構図



第6図 SI-2 遺構図